

2022年 新年交賀会あいさつ

2022年、令和4年の年頭にあたりまして、ご参会の皆様にご挨拶を申し上げます。

明けましておめでとうございます。本年も、昨年にも増して、どうか一つよろしく願い申し上げます。

一昨年1月に国内で新型コロナウイルスの感染者が発生してから丸2年が経過しようとしております。まず未知のウイルスでございますので、どう対処すればよいのかが分からないということで、前例がないというのは非常に対応が難しい。単的な例として、今回の、この新年交賀会の開催につきましても、メインとなる懇親会を行わない中で、開催することに迷いがありました。ですが、ほぼ2年間皆様と一堂に会することができていないということで、そのことだけでも開催する価値があるのではないかと、さらには、オミクロン株の出現により先行きも不透明であり、この機会を逃しては、いつ実施できるか分からないという思いもありまして、この状況でできる内容で準備をするよう担当の方に指示をしておりましたところ、お忙しい中、せっかくお集まりいただくのだから、懇親会に代えて講演会をとの提案がありました。そこで、講師料を補正予算として議会にお諮りしたところ議員の皆様からも賛同を得ることができました。ということで、本日このように開催する運びとなったものでございます。お集まりの皆様にはご足労をおかけすることになってしまいましたが、何分にもそういうことでございますので、ご容赦いただきたいと思います。

実は、昨年実施した花火大会につきましても、一昨年も、私は観光協会の事務局に実施する方向でいかがかと相談したのでございますが、やはり感染が心配だということで、実施するには至りませんでした。昨年は、3つの会場に分けたら密を防ぐことができるだろうということで、会長はじめ協会の同意をいただき実施することができたのでございます。

さて、昨年は、前年にも増して新型コロナウイルスが猛威を振るい、岩手県でも独自に緊急事態宣言を発令するなど、大変な状況の連続でございました。本村におきましても、村内に所在する事業所で感染された方がおられました。幸い大事に至ることがなく経過したことを関係者の皆様に感謝申し上げる次第でございます。この感染症があぶりだしたのは、現代という時代が抱える社会の歪みではないかと思っております。世界的に秩序を欠いた乱開発がなされてきた結果、今まで自然界に留められていた未知のウイルスが、次々と人間社会に押し寄せてきていると唱える識者の方がおられます。先進国の人々の生活形態そのものが、人類の生存環境に悪い影響を与えているというものでございます。残念ながら、正鵠を射た指摘と言わざるを得ません。

このようなウイルスの問題とともに、近年、SDGs (Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標) という言葉に接する機会が増えております。そういったこととも相まって、今後も持続可能な人間社会を継続し

ていくためには、人口過密ではない所、例えばまさに九戸村のような地方に住んで、自然と対峙するのではなく、縄文時代の人々の暮らしを、お手本にしたような「自然と共生していくライフスタイル」が望まれるのではないかと心の底から思っております。

新型コロナウイルス感染症などが惹き起こす大きなパラダイムシフトによって、つまり、世の中が180度転換することによって、今まで遅れていると言われていた地域が、次の時代のトップランナーになる可能性は大いに考えられると私は思っているところでございます。

私が執務する村長室に、岩手県知事在任当時の中村直（ただし）さんから揮毫いただいた扁額がかかっております。「自我作古」と書いて、我よりいにしえをなすと読むそうですが、中国の歴史書「宗史」に由来するこの言葉は、かの福沢諭吉翁も良く引用していたということで、解釈は、前人未到の新しい分野に挑戦し、困難や試練があっても耐えて切り開いていく、つまり、ここからが新たな始まりだ、というもので、言い換えますと「自らが歴史を作り出す」との気宇壮大な気概を含んだ言葉でもあります。まさに、村活性化を促す「ナインズプロジェクト」を実践し、これまでになかったような、新しい九戸村を創って行こうとしている、今の私どもにふさわしい言葉だと思っております。

繰り返しになりますが、新型コロナウイルス感染症によって、人類社会は変革することを余儀なくされていると思っております。生命の進化の過程が示しているように「強

い者、賢い者が生き残るのではなく、変化に対応できたものが生き残るのだ」ということでございまして、変化しないことには、いろいろな意味で生き残れない事態になるということございします。まさにパラダイムシフトが惹き起こされるのであります。こうした、世の中の変化の中に、私は地方の良さが見直されることを期待しております。そして、ポストコロナ時代というのは、まさに前例のないことに取り組んで行かなければならない時代になると思っております。

昨年4月から、村の活性化策であるナインズプロジェクトを盛り込んだ「第3次九戸村総合発展計画」がスタートしております。今年は、カーボンニュートラル、環境政策を柱の一つに加えることを想定しております。このことによって、サステナビリティ「持続可能な村」の在り方というものを追求していくということございします。

また、九戸村全体を公園に見立てて整備していく「パークビレッジ構想」にも着手したいと思っております。

さらには、九戸村で力を入れている数多くの少子化対策、人口減少対策への取り組みをご存じない方がまだまだ多いと感じておりますことから、いろいろな媒体を用いて発信力をより一層強化していく必要性を感じております。

一昨年4月、多くの村民の皆様からご支援を賜り、村長に就任以来1年8か月余りが経過致しました。立候補のあいさつ回りの際、私の政策パンフレットをご覧になって「こういうことを実行してくれるのだったら応援するよ」と言葉をかけていただいた、お一人お一人の切実

な眼差しは、今でも脳裏に鮮烈に焼き付いております。
あの、本当に切迫感を持った「眼差し」は、今後も決して忘れることはないだろうと思っております。

新しい年も、その時の気持ちに立ち返って、村民の皆様にお約束した村を実現していくために、暮らしに寄り添った政策を一つ一つ着実に実行するべく全力を尽してまいります。

本年は、3月には九戸分署が、夏ごろまでにはリニューアルされたオドデ館が完成する予定となっております。また、風力発電の風車も形が見えてくるようでございます。さらに昨年末には、三陸沿岸を八戸から仙台まで縦貫する高速道路も全線開通し、この岩手県北の地にもいろいろな動きが出てきております。

村といたしましても、そういう世の中の良い波に乗っていけるよう、ご参会の皆様を始めとする方々のお力添えをいただきながら、「魅力ある キュート（九戸）ヴィレッジ 九戸村」創造に向け力の限り邁進してまいります。

それでは、本年も、これまで同様、皆様の絶大なるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げまして、新しい年を始めるにあたってのごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。